

ドクター・ドルフィン

シリウス 超医学

地球人の
仕組みと
進化

∞ishi ドクタードルフィン

松久 正

Tadashi Matsuhisa

高次元サポートと共に
スーパー
医療革命
を共有しよう!

著書累計27万部
新規予約数年待ちの
ドクタードルフィンが
ついに語り出した
覚醒の医学の全貌



ヒカルランド

はじめに

いまの現代地球社会と現代地球医学で、地球人たちは、必死でもがいています。

「こうならなくては」、「こうでなくては」と、いまの自分を否定しています。

一方、高次元シリウス社会と高次元シリウス医学で、シリウス生命体たちは、「これでいいんだ」と、いつも、^{たの}楽で愉しく生きています。

どんなに人生や身体の問題があっても、ニコニコしながら、それらと付き合っています。

この違いの謎は、何なんでしょう。

いまこそ、低次元な地球は高次元シリウスのエネルギーを取り入れていくべきとき

です。

これからの地球が進化する鍵は、彼らが握っています。

このタイミングに、高次元シリウス社会と高次元シリウス医学のエッセンスを凝縮した「シリウス超医学」を、ここに披露します。

この本が地球で愛され、地球未来社会と地球未来医学が、愛と喜びでいっぱいになることを、シリウスの仲間たちと一緒に見守っています。

∞ ishi

ドクタードルフィン 松久 正

第1部

封印された地球人を開くシリウス超医学

第1章 現代地球医学からシリウス超医学へ

ドクタードルフィンのパックボーン 012

シリウス超医学に必要な地球基礎課程 018

大宇宙の采配と恩恵として宇宙の叡智 023

海外、国内隔々から患者が来院する地球で一番スペシヤルな医師 028

地球を高次元シリウス化させるドクタードルフィンの活動 034

ドクタードルフィン の診療で目指すもの 044

「もがかない」シリウスの地球人になる 049

第2章 シリウス超医学と高次元多重螺旋DNA

高次元シリウスの世界 056

高次元多重螺旋DNAについて 060

シリウス超医学の核になる超時空間遠隔医学 069

松果体と生命の謎 074

DNAの絡みをほどくということ 079

第3章 新しい地球とシリウス超医学

進化する超次元・超時空間松果体覚醒医学 & IGAKU 084

がんと地球人	086
統合失調症と地球人	093
筋萎縮性側索硬化症(ALS)と地球人	097
地球の奇跡はシリウスの常識	102
ダウン症・自閉症と地球人	104
松果体と宇宙人とシリコンホール	108
珪素とフリーエネルギーと反重力	113
高次元シリウスBから地球のスーパーレムリア時代へ	119
時間も空間も超える「超時空間松果体覚醒遠隔医学」とは	124
同一時空間松果体覚醒遠隔医学の体験レポート	128
松果体ポータルと多次元パラレル自分宇宙	135

シリウス超医学が地球の靈性の扉を開く

第1章 高次元シリウスエネルギーを体感する

高次元シリウスエネルギーのサポート 140

望みが想いどおりに実現する非物質の高次元シリウス 145

第2章 これがシリウス超医学の診療現場だ！

鎌倉ドクタードルフィン診療所のリアル患者体験記 パート1 148

鎌倉ドクタードルフィン診療所のリアル患者体験記 パート2 171

骨の形や筋肉の形態が瞬時に変わる原子転換の医学 188

第3章 松果体を活性化してDNAを書き換えるセルフワーク

セルフワーク① 「ドルフィンタッチ 1、2、3」(物理的ワーク) 196

セルフワーク② 「ドルフィンフレーズ」(言霊ワーク) 207

セルフワーク③ 「ドルフィンチャージ」(化学的ワーク) 211

セルフワーク④ 「ドルフィンリセット 1、2、3」(高次元ワーク) 215

高次元シリウスでは全てが医者であり、全てが患者であり、両者は対等 224

おわりに 226

第1部

封印された地球人を
開くシリウス超医学

現代地球医学から
シリウス超医学へ

第1章

ドクタードルフィンのバックボーン

この本は、ぜひ地球にいる全ての人間に読んでいただきたいと思っています。

逆の言い方をすれば、皆さんにぜひ読んでいただく必要がある本にしたい。そういう本になるだろうと期待しています。

そういう私の思いを込めて、『シリウス超医学』と、タイトルにあえて「超」という言葉をつけました。

私は、子どものころからこの社会に非常に違和感を持っていました。

規制だらけの社会は非常に窮屈で、限界だらけです。あなたはそうはなれないよ、無理だよという締めつけが余りにも強過ぎる。

そうではなくて、自分の好きな自分になれる社会にしたい。そのようにできる可能

性があるはずで。

私は、この地球の今生で医師（ドクター）として活動してきましたが、もがきながら、よりよく存在する人間と社会を築き上げたいという思いでやってきました。

地球人の特性は、体を持つということが非常に大きい要素になります。

この宇宙には、実はいろんな生命体がありますが、地球人の特性は体を持っている。しかも、すごく重いエネルギーの体です。

重いので、空間で好きなどころに自由に移動できない。

必ず歩いたり、走ったり、乗り物に乗らなければなりません。もしくは、過去・現在・未来という時間の枠にどうしても強烈に捉われる。

さらに、地球の重力に強く縛られる。

これが体を持っているために生じる地球人の不自由さです。

体を持っているのが地球人の特性なので、体を診られる医師にならないと、私が望む人間も社会もつくり上げることができないだろうというのは、幸い直感的に子どもころからわかっていました。

私は小学校のときの「20年後の僕、私」という作文に、「医者になります」と書き

ました。

内容は、「先生、息子のがんです。助けてください」と言われて、私が「よしよし、診てあげよう」と診療して、次の日には元気になりましたというストーリーなんです。今、これを振り返ると、何てバカなことを書いたんだということになると思うのです。

私も、少し前までは、子どもだからこんなことを書いてしまったと、少し恥ずかしいという部分と、よく書いたなという部分と、混在する思いがありました。最近はいや、デタラメではなかったな、あのとき、私は直感的に、私が目指す人間と社会の姿を感じ取って文章にしたのではないかという感覚を持ってきました。

それはともかく、そのときから医者にならないといけない、体を診られて初めて人間の心とか感情、もしくは人間の能力、それにまつわる全ての人生を変えることができるであろうという直感を持っていたわけです。

そういう思いのまま成長して、大学入試は医学部を受験しました。このときのことには私の今までの著書でもいろいろ書いてきましたが、簡単に触れておきますと、高校時代、私は厳しい監督のもとで部活の柔道ばかりやっていました。ろくに勉強もしな

かったので医学部受験に失敗して一浪したのです。

そのときに、医学部に行くにしても、自分の人間力を高めたい。人間力イコール世の中への発信力と言いかえられると思い、医学部でも世の中に影響力を持てるところに行くべきだろうと直感的に感じていたわけです。

それで、一浪することになったので、自分の能力の可能性に賭けてみようと思いましたが、

私は三重県桑名市出身なので、名古屋の予備校に行けばいいのですが、名古屋で一番をとっても私の望む状態にはならないというのが直感でわかったので、東京でひとり暮らしをして、市ヶ谷にあった駿台予備校医学部コースに通いました。

幸い入塾テストで一番いいクラスに入れて、日本のトップグループの人たちと一緒に学べた。私はその1年間で偏差値を20伸ばしました。

逆に言うと、高校時代はどれだけ勉強していなかったかということ。柔道の部活でいつもクタクタで、勉強する気力も残っていない。ですから、浪人の1年間はがむしゃらにやりました。

北松戸に学生ハイツという寮みたいなのがあったって、市ヶ谷まで通う生活の中で、

住んでいるところは門限10時、テレビもないという生活を、1年間過ごしました。

偏差値を20伸ばして、晴れて私の念願であった慶應義塾大学医学部に入学できたのです。競争率は43倍でした。

ここで、宇宙の大恩恵をいただきました。今思えば、ここに入れていただいたのが、私が今活動する基盤の力、底力になっている。医学部の中でも、その大学を卒業しているというのが私の中の1つのパワーの源になっていると感じております。

医学部時代は、もちろんいっぱしの外科医になろうとか、最高の研究をしてノーベル賞を狙ってやろうぐらいの意気込みを持っていたのです。そういういわゆる現代社会の枠組みに乗った世界を描いていました。

卒業して、私は本来は東京にあった慶應義塾大学医学部整形外科の医局に入る予定でしたが、その時期に母親の体の不調とか、家族の事情がいろいろ生じまして、思い切って地元に戻るということになりました。

三重大学医学部整形外科の医局に入って10年間の臨床と研究、自分では、そこで現代医学を十分やったと思います。

手術をたくさんこなして、外来で患者さんを診て、薬の処方をして、注射を打って

いました。その10年間のうちの2年間は、病理学教室に出向いて遺伝子の研究に従事しました。

私は今、遺伝子、DNAのことをよく語るのですが、その時の経験がとても役立っています。

私は背骨に人間の根本的な要素があると考えていましたので、背骨の手術には特に興味があつて、たくさんの脊椎手術にかかわらせていただきました。

人間を生かしているエネルギー、生命力は、脳から背骨の中にある脊髄せきずいというやわらかい神経組織を通るのです。そこを手術で実際に見て、手で触れることができたということは非常に大きいわけです。

だから、皆さんにアピールしておきたいのは、この本では、空論で書いているのではなくて、全て実際に手で触れて、手術でかかわってきたものをお話できているということです。

シリウス超医学に必要な地球基礎課程

ただ、現代地球医学の10年の中で、子どもどころから抱いていた「人間は自分自身
の力で体も人生も変えていくことができるんだ、いや、変えるべきなんだ」という世
界を、現代地球医学の中にはほとんど見出すことができませんでした。

理由は、病気は自分の意思とは関係なく、不意に外から襲いかかってくるものだ
という現代地球医学の根本的なコンセプトにあるわけです。

バクテリア
細菌、ウイルス、真菌^{かび}、放射能、汚染物質、化学調味料、栄養の問題、いろんな原
因が病気の起点になるとされているので、自分はなりたくなくても、環境のせいにな
ってしまうというのが今の医学のコンセプトです。

なりたくないのにたまたまなってしまう病気を治すには、その原因を薬でたたく

か、抑えつけるか、もしくは何か足りないものであったら補充する。がんに対しては抗がん剤でたたか、放射線でたたく。

もしくは、がんも含めて、その病気を手術でとってしまう。とってしまったところに何か機能が必要であれば、何かで入れかえる。そういう治療体系になってしまったわけです。

「なってしまった」というのは、それが理想的な姿ではないと考えているからです。問題なのは、今、最先端を走っていると皆さんが思われている現代地球医学、そこに関わる医療従事者の本質が、全てこの概念に基づいているということなのです。

そうすると、病気とか症状は外から降りかかってくるから、降りかかってしまったものをたたか、とってしまうか。もう1つは、病気にならないためには、降りかかってくるものを避けるという予防医学で精いっぱいになります。そういう世界でできてしまっているわけです。

少し冷静に考えてもらおうとわかりますが、その概念の中に、自分の力で症状とか病気を回復させて、自分の人生を豊かにする、幸せにするという要素はどこにもありません。

そういったところにすごく疑問を持ちました。

また、フラスコとかビーカーを振って、電気泳動で遺伝子の動きを見て、これがこのがんの原因とされているがん遺伝子だと同定しても、よく感じていたのは、がん遺伝子を持っているからがんになるのではなくて、がん遺伝子のスイッチがオンに入るからがんになるのです。

通常、がん遺伝子は誰でも持っています。人類の長い歴史の中で情報としてインプットされてしまっています。先祖の誰かががんになったとか、なっていないなくても、すべての人にがん遺伝子が内蔵されています。ただ、Aさんはがんを発症するのに、Bさんは発症しないというのはなぜかというところ、がん遺伝子がオンになっているか、オフになっているかです。

そう考えると、がん遺伝子をオンにするシグナル、オフにするシグナルは何なんだというところに入っていくわけです。

暗い研究室で、一人でフラスコを振りながらがん遺伝子を研究していても、これ人類の進化とか成長に貢献するのかなと、むなしくなりました。そして、また手術とか外来で人間の何が変わるのか？ これは今の医学の枠わくから飛び出さないと、私が求

めている世界にはたどり着かないと感じました。

背骨の中に生命力が通っているということは確信していたので。背骨を専門とする自然医学であるカイロプラクティックの発祥の地であるアメリカに学びを求めて行きたわけです。

行く過程にはいろいろありました。医局の教授に大反対されたり、勘当だと怒られたりしながら、それでも自分がそれを曲げずに来られたのは、地球社会と地球人類の未来のために、自分が動くべき方向だと感じていたからです。

それで私は教授に「私の思いは変わりません」と伝え、アメリカに旅立ちました。アメリカでカイロプラクティックの大学を卒業しました。

カイロプラクティックは薬も手術も使わずに、背骨のゆがみを正す自然医学です。生命力の情報を伝達する経路である神経、脊髄を包んでいる背骨がゆがむと、伝達が障害されますが、ゆがみを正すことで、生命情報の伝達を正常化させます。

その勉強を4年間こなし卒業し、アメリカの国家試験にパスして、ドクター・オブ・カイロプラクティックというドクター資格を取りました。

そのまま日本に帰っては実力がつかないだろうと考えて、私が一番尊敬していたア

リゾナ州フェニックスにいるドクター・ララのもとで腕を磨きたいと思いました。私を雇ってくれと申し込んで、熱意が通じて何とか雇っていただき、4年間働きました。そのおかげで、カイロプラクティックの中でも習得が最も難しいけれども、効果が最も高いと私が認識しているガンステッド・カイロプラクティックの知識と技術を完全にマスターできたと考えています。

アメリカで2人しかいない、世界で3人目のガンステッド・カイロプラクティック・アンバサダーを、アメリカのガンステッド・セミナーから授与されました。

現在でも、私はガンステッド・カイロプラクティック・オブ・ジャパンという組織の代表です。アメリカからガンステッドの一流のドクターたちを連れてきて、1年に1回、セミナーを開催してきました。この2年ぐらいは事情があつてちよつとお休みしていますが、ぜひ再開したいと考えています。

大宇宙の采配と恩恵そして宇宙の叡智

私の経歴をまとめると、私は子どものときから、社会を変える、人間を変えるためには、体を診る医師にならないといけないわかっていました。医師になって10年間、現代地球医学をやったものの、現代地球医学の仕組みの中には、私が求める世界を築く能力が感じられなかった。その能力を求めて目にみえない力をもっと勉強しないといけないということで、アメリカに渡ってカイロプラクティックを10年。米国のドクター資格をとり、患者を診てきました。

その中で、特にアメリカの10年の後半はもがいた時代でした。もちろん日本の整形外科医の時代も、こんな薬、手術、遺伝子の研究だけで私が求める世界が本当に実現できるのだろうかともがいた時期がありました。

現代地球医学10年をしつかりやりました、カイロプラクティックもしつかりマスターして、米国でもドクターの資格を取って、患者も診て経験も積みました。

でも、現代地球医学とカイロプラクティックの原理と考え方、やることが余りにも違っていて、それらの両極が融合してこないのです。やってきたことを全て統合していかないといけない時期でしたが、どう融合させていったらいいかというのが読めなくて、毎日もがいていたわけです。

その中で、自分が活動していたフェニックスは、幸いセドナが近かったので、よく通うようになりました。そこでヒーラーとか、チャネラーとか、いろんな能力を持った人たちと会ったり、ホピ族のインディアンと交流する機会があって、いろんな高いエネルギーと触れることができたというのは大きいことでした。そこにはパワーストーン・ショップもたくさんあって、そういった石たちのエネルギーにも触れました。その中で、私のもがいていたエネルギー、今まで分離していたと思われるエネルギーが、あるときから融合を始めて、今までやってきたことは全てムダではなかったとわかりました。

それまでは、直感でムダではない、全部必要だというのはわかかっていても、実用的

にそれが見えてこなかったのですごく苦しかったのです。

実用的に、これとこれはこうつながってくるんだと、いろんなものが融合し始めた。その過程では、「セル」や「ネイチャー」、「ニューイングランド・ジャーナル・オブ・メディスン」という最高峰の科学雑誌や医学雑誌、スピリチュアル、精神世界の本をアメリカで英語でも日本語でもたくさん読んで、あとは量子力学の英語や日本語の本をたくさん読んできたというのが大きいわけですが、その中にも私の求めるものがあったとは言えない。私はこの地球上にない知識とか情報が必要としていたのです。アメリカのフェニックスにいて、もがいているとき、セドナに通い始めてから、いろんな不思議体験をしました。第三の目が開くような体験もしました。

自分の高いエネルギーのことを私は「宇宙の叡智^{えいち}」と言うのですが、自分が宇宙の叡智とつながるようになってきて、そこからダウンロードされるように必要な情報を私が受け取れるようになってきました。

おかげで、やることがだいたい見えてきまして、これからだというときです。アメリカに行っちゃってちょうど10年弱、バブルが最高のときで不動産はバンバン上がる、グリーンカード（永住権）があと2〜3カ月で取れる、このままアメリカに残ろうとしてい

たときに、父親が末期の腎臓がんで余命が長くないということが私に伝わってきました。まさかそうなるとは思っていなかったのですが、やっぱり大きなショックだったし、自分に非常に大きい変化を起こす出来事だったのです。

今まで描いていたものがクルッと変わり始めて、やはり今、日本に帰るべきなんだ、永住権を諦めて、私が今まで学んできたもので父親に少し恩返しをして、日本で活動するべきなんじゃないかと思い始めました。

診ていた患者の申し送りとか、帰国の準備に2カ月ぐらいかかって、結局、お葬式の当日に帰ってきました。

父親の死の際にはぎりぎりであいませんでしたが、いまだに感謝するのは、父親が私をいいタイミングで日本に帰してくれたということです。私が帰ってきたころにアメリカのバブルが弾けたので、あのまま残っていたら結構きつかったかなと思うのと、日本のほうが靈性はダントツに高い。日本で活動することができてよかったです。思います。

私の本を読んでいたただくの、私のバックグラウンドを知っていたことは大事

なので、いつもこの部分を書いています。ほかの本を読んでいて、繰り返しになる方には申しわけありません。

日本に帰ってきましたが、10年いなかったので信用もありませんし、資金もほとんどゼロの状態でした。ある方の尽力もあり、私の可能性や能力を判断してくれて奇跡的に銀行の融資がおりて、鎌倉という土地の応援があつて、開業することができました。

私は三重県桑名市の出身なので、名古屋や地元でやれという声が高かったけれども、私には日本を変えていきたいという思いがあるので、日本の中心でやりたかった。最初は都心を考えてのですが、鎌倉には、東京、横浜にはない非常に穏やかなエネルギーがある。その穏やかさが、人間を変えるエネルギーをつくり出すにはものすごくいい環境なのです。それで鎌倉の地に導かれた。私の診療所は鶴岡八幡宮の二の鳥居の近くで、鎌倉の中でも最高のパワースポットです。不動産会社の方の案内を受け、初日でそこに決めました。

本当にゼロから始めたのですが、私を必要とする方が全国から駆けつけてくれた。そのきっかけになったのがマキノ出版の『「首の後ろを押す」と病気が治る』です。

これが健康本の大ベストセラーとなって、全国各地から患者が来院するようになって、数年で新規予約6年半待ちというところまでいったのですが、こんなに待たせたら本当に必要としている人を必要なときに診られないという現状に苦しんだ結果、今はシステムを変更して、1〜2年で診られるようなシステムづくりをしています。難病の方とか、命が長くならないと言われていて待たせられない方は、特別に枠を設けて早く診るようにしています。

海外、国内隅々から患者が来院する 地球で一番スペシヤルな医師

そういう中で、いろいろな革命本を出させてもらってきました。『Dr. ドルフィン地球人革命』（ナチュラリスピリット）に始まって、『高次元シリウスが伝えたい水晶（珪素）化する地球人の秘密』（ヒカルランド）、『ワクワクからぷあぷあへー』「楽で愉

しく生きる」新地球人になる魔法―』（ライトワーカー）を出してきましたが、それらの中では、あえて私は医学というものになるべく触れなかった。医者だと思われるのが余り好きではなかったというのもあるのです。

社会では医者というと、おきたい職業で、頭がよくて、言うことを聞かないといけない人、体を治してくれる人という概念があると思うのですけれども、それは私が求めるイメージ像ではないんです。

ドクタードルフィンは私の人生を変えてくれた、気づかせてくれた、学ばせてくれた、私の人生も健康も変えてくれたということの後で気づくような仕事をしたと思うっていたのです。

だから、医者ということをあまり表に出さずにいろいろ本を出してきたし、私がこの診療所でやっているようなことにもなるべく触れずにきたし、私がどういう医学をやっているのかというのも本当に最小限にして、生き方改革に重きを置いてきたのです。

その原点は、人間の生命はどういうふうに誕生するか、なぜ生きているのか、そしてどのように生きるとよいのかです。

魂というところとちよつとうさん臭い言い方になるかもしれないので、きちつと説明しておく、人間の本质は、体、細胞という形のあるものではありません。魂の意識エネルギーだけが人間の本质です。

その本質であるエネルギーが下がってきて、最終的に体になったのが地球人です。エネルギーがどのように生まれたか、どのように人間になったか、どうして人間の人生や健康は思いどおりにいかないのか、それをいい方向に向けるにはどうということをやったらいいかというのも紹介してきたわけですが、私のやっている医学とか医療にはなるべく触れずに、皆さんが自分自身でやるセルフケアという感じで紹介してきました。

というのは、1つは、私を頼らない世界をつくりたいというのがあったからです。自分を変えるために私を必要として、私のところに来るのではなくて、私が触れなくても、私と交流しなくても、自分自身で自分のエネルギーの状態を変えて、健康も人生も変えていくという人間像、社会像をつくりたかったがために、医学ということにあえて触れてこなかったのです。

でも、ここに来て、いろいろ本を出させてもらって、自分の原点を振り返るように

なってきました。日本で整形外科医を約10年、アメリカでカイロプラクティックを学んで10年、日本へ帰って開業して、スピリチュアルとか量子力学を加味した私オリジナルの医療、医学を発展させてきて10年。3つの10年の節目に、やはり自分を振り返るということが起きてきました。

自分が世の中に発信できることは何だろうと振り返ってみると、今まで本で訴えてきたことはもちろん大事だけれども、違った側面から発信していくことが、また重要なのではないかという感触を持つようになりました。

それは何かというと、まず1つは自分が医師であることです。しかし、普通の医師ではない。最も偏差値が高い東大と双璧と言われている慶應義塾大学医学部を卒業して医師を10年やって、専門医の資格も取りました。

さらにそれだけでは不十分だと思い、アメリカで大学にまた一から入り直して学生をして、解剖も生理学も英語でやり直して、実技も本格的に勉強した。そしてアメリカの国家資格であるドクターになりました。それでもまだ不十分なので、もがきながらアメリカで一から患者を獲得して、臨床もやってきた。そういった特別の医師である、と自負しています。

それだけでは自分の進む道が見えなかったので、スピリチュアル（精神世界）プラズマ量子力学をしっかりと学んで、それを融合させてきた。これは一般社会にいない医師の姿だと思います。

そういうドクターだからこそ発信できることは何か。

まず自分だから診られる患者がたくさんいるわけです。自分がそういう経歴を持って、それだけ自分のエネルギーを高めてきたから診られる。逆に言うと、一般的な現代医学のシステムに沿って一生懸命学んで、経験を積んで、非常に優秀な医師になつたとして、もちろん診られる患者はいるけれども、そういう普通の医師には診られない患者がそれ以上にたくさんいるわけです。

私の特徴は、カテゴリーなしで全ての人間が診られるということです。

振動している生命であれば全て診ることができます。

今の状況では人間を対象としていますが、動物でも何でも診られる。そして、あらゆる人間像を診ます。つまり、症状があってもなくてもいい。症状がなくても、魂の進化成長をしたいという人が来ます。もしくは、自分の振動数を高めたい。振動数というのは、人間の本質であるエネルギーの正体です。

皆さんのエネルギーは振動して、螺旋回転らせんをしているわけです。そのエネルギーを高めたいという人もいます。こういう自分が嫌だから、変わりたいという人もたくさん来院します。自分をいい方向に変えたいという人が来る場所です。

もちろん、こういう症状が嫌だから治したいという病気の人も来ます。私の診療所で特に多いのは難病です。現代医学でどんな有名な先生の医療機関に行っても、治療法がないとされている難病の人たちがたくさん来院します。

また、現代社会の難敵とされるがんは、命を最も脅かす存在で、不安と恐怖を最も感じるものです。進行性で悪性のがんのステージ4とか、進行期、末期と言われている人たちをたくさん診ます。

いろんな心の病気、うつを初め、社会不適應とか、統合失調症で、幻聴が聞こえる、幻覚が見えるという人も少なからず診ます。あとは、自殺願望、自殺未遂の人などです。

子どもの先天性疾患、生まれつきの病気とか、自閉症、ADHD。彼らは本当はすばらしい子どもなのですが、今の医学では劣っているとされてしまうのです。

このように私は、非常にスペシナルなドクター像であると考えています。